今の大井川絵地図

保存版

大井川は南アルプスの間ノ岳（3189ｍ）を源流として駿河湾に流れ込む全長180㎞の大きな川です。
山が高く水が豊かで水力発電に適したところとして電気を生み出す川となり、機械や電化製品を動かし私達の生活を豊にしています。
水力発電に利水された水は農業用水・工業用水・水道用水として有効に利用されています。しかし、川に魚や水生生物が住めなくなったり、堆積土砂の問題や砂浜の減少など、本来の川としての機能が失われて自然の環境は変ってしまいました。
大井川の今と昔を絵地図にしてみました。環境の変化を見くらべてみて下さい。

塩郷えんてい

- えんていの真下に大井川の水毎秒60トン～90トンがトンネルの中を通っていて直接川口発電所につながっています。
- えんていから上流部の川根本町（千頭）まで、土砂が堆積して河床が4ｍ～6ｍ上っています。
- さらに、井川ダム・畑薙ダムやその他のダムの上流も土砂がたまり、えんていの下流部は土砂が流れないので河床が下がっています。

※川の三大作用は
- 上流部浸食作用
- 中流部運搬作用
- 下流部堆積作用

だけども、大井川はダムのために逆の作用となりました。

発行・大井川の清流を守る研究協議会　大井川を再生する会
編集・作図・小沢節子（川根本町上長尾859-6）
監修責任・山田　蔀（川根本町上長尾1258-2）
平成22年3月　改訂

60年前の大井川絵地図

保存版

赤石岳 3,081m
荒川岳 3,141m
塩見岳 3,052m
間ノ岳 3,189m
南アルプス

西俣川
東俣川
田代ダム
→ 山梨県
二軒小屋
静岡県
田代川発電所
第2
第1
富士川へ

上流部には道がなかったので、山梨県から山道を歩きました。林業がさかんで、川の流れを利用して木材を流したこともあります。

上流部の魚

赤石沢川
椹島

うなぎやアユは、大井川寸又川など最上流部までのぼっていってアユは秋、海へ行くころには30cmになったといいます。

千頭ダム
大井川
湯山発電所
井川
大間ダム
大間発電所
大井川ダム
寸又川ダム
寸又川
千頭
川根本町（旧本川根町）
大井川発電所
導水トンネル
上長尾
川根本町（旧中川根町）
境川ダム
久野脇発電所
北緯35°
東海パルプ
地名発電所
笹間渡発電所
笹間川

石のこと

★上流部はとがった大岩
★中流部は丸い大石、中石
★下流部は丸い小さな石、砂利
★海岸は小砂利と砂

中・下流部のさかな・かに

大井川の働きと水のゆくえ

南アルプスなどの山々にたくさんの雨や雪が降ります。（年間雨量3500ミリ）

- 台風などの洪水時には大量の土砂を海まで流し、海岸の砂浜や大陸棚を作ります。
- ふだんの雨は、森林がたくわえ、少しずつ川に流してくれます。このとき、森林の栄養分を水の中に含めて流します。
- あちらこちらの沢や支流の川の水が集まって中流から下流に下り豊かな流れとなって駿河湾に流れ込みます。
- おいしい川の水は海の中に海藻林を育てて海の生きものが育ちます。
- やがて、海の水が蒸発して水蒸気が立ちのぼり山に雨を降らせ、海から川へ魚（鮎やうなぎなど）が遡上します。生物にとっても循環のパイプは川です。

このことを山・川・海の自然循環といいます。

大井川の三日月湖
野守の池
家山
島田市（旧川根町）

★あちらこちらに渕があり、魚つりや、水遊びで、大人も子供も毎日川に行きました。
★大井川の岸には、大きな木が植えられていました。

海から上流部まで旅するさかな

牧之原台地は明治時代に開拓された大茶園です。
水の少ない土地のために茶の木を育てるのが大変でした。
そのため現在は大井川の水を送る農業用水路が作られています。

島田市
島田市（旧金谷町）
農業用水
牧之原台地
（旧）初倉村
水道水
農業用水
工業用水
藤枝市
栃山川
焼津市（旧大井川町）
大井川の伏流水
養鰻池
牧之原市（旧 榛原町）
吉田町
遠浅の海岸
牧之原市（旧 相良町）
御前崎市
（旧 浜岡町）
（旧 御前崎町）
海藻林
駿河湾